

## 平成 29 年度大規模地震時医療活動訓練の実施について

南海トラフの地震を想定し、「南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画（平成 29 年 6 月改定）」等に基づく大規模地震時医療活動に関する総合的な実働訓練を実施して、当該活動に係る組織体制の機能と実効性に関する検証を行うとともに、防災関係機関相互の協力の円滑化を図る。

本訓練は、東海地震、首都直下地震、南海トラフ地震を想定し、広域医療搬送訓練として平成 16 年度から始まり、毎年実施されているが、平成 27 年度以降、搬送訓練に留まらず機関間連携を重視した医療活動全般にかかる訓練へと発展している

### 1 実施日

平成 29 年 7 月 29 日（土） 8 時 00 分～18 時 00 分（予定）  
（発災は平成 29 年 7 月 28 日（金）正午）

### 2 被害想定等

南海トラフ地震により、三重県、和歌山県、大阪府、兵庫県に甚大な被害発生を想定  
兵庫県内では、県南部を中心に全域に甚大な被害が発生（最大震度 7）  
被災 4 府県に対し、宮城県、新潟県、滋賀県の 3 県を支援県と想定。  
本県は被災県としては初めての訓練参加となります。

### 3 県内の主な訓練内容等

訓練内容	訓練会場・詳細
各種本部設置・運営	県庁防災棟 北側増設棟 3F <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健医療調整本部</li> <li>・DMAT 調整本部</li> <li>・ドクターヘリ調整部</li> <li>・DPAT 調整本部</li> </ul>
SCU(*) 設置・運営 医療搬送	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪国際空港（大阪府と共同設置）</li> <li>・但馬空港</li> <li>・三木総合防災公園 （ドクターヘリ参集拠点、ドクターヘリ本部も設置・運営）</li> <li>・南あわじ市文化体育館（日赤 d E R U（仮設診療所）を活用）</li> </ul>
DMAT 参集拠点設置・運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山陽自動車道 龍野西サービスエリア（陸路）</li> <li>・大阪国際空港（空路）</li> </ul>
DMAT 活動拠点本部設置・ 多数傷病者受入等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県立尼崎総合医療センター</li> <li>・神戸大学医学部附属病院</li> <li>・県立加古川医療センター</li> <li>・姫路赤十字病院</li> <li>・県立淡路医療センター</li> </ul>

(\*) SCU : Staging Care Unit 災害時、患者を航空搬送する場合の臨時医療施設

#### 4 訓練に参加する航空機

- ① 地域内医療搬送 : 自衛隊ヘリ、兵庫県警ヘリ、県消防防災ヘリ、兵庫県ドクヘリ、山口県ドクヘリ、広島県ドクヘリ
- ② 広域医療搬送 : 海上自衛隊固定翼機 (CH-130R) (大阪国際空港→新潟空港)

#### 5 主な関係機関

##### ① 行政機関

陸上自衛隊、県消防防災航空隊 (消防防災ヘリ)、兵庫県警察ヘリ、県内 14 消防本部・局、淡路広域水道企業団、県内 15 健康福祉事務所・保健所、兵庫県など

##### ② 民間機関

空港事務所 (関西エアポート株式会社、但馬空港ターミナル株式会社)、JAXA、朝日新聞社、兵庫県トラック協会、NEXCO西日本、ヒラタ学園 (兵庫県南部ドクターヘリ)、中日本航空 (広島県ドクターヘリ)、朝日航洋 (山口県ドクターヘリ) など

##### ③ 医療関係機関 (DMATを除く)

日本赤十字社兵庫県支部、兵庫県赤十字血液センター、小児・周産期リエゾン、JMAT、DPAT、DHEAT、兵庫県医師会、兵庫県薬剤師会、兵庫県放射線技師会、兵庫県臨床検査技師会など

#### 6 訓練参加人数

県内外医療機関・行政含め、兵庫県内で約 80 機関、約 1,000 名が参加

〔 参考 : 被災地外 43 都道府県から被災地 4 府県に参集する支援 DMAT 数  
327 病院 351 チーム 1,674 名 〕

#### 7 報道機関問い合わせ窓口について 別紙のとおり

兵庫県健康福祉部健康局医務課  
担当 : 朝山・斉藤  
TEL : 078-362-4351  
FAX : 078-362-4267  
E-mail : imu@pref.hyogo.lg.jp